第 16 回ヘルシィエイジング学会
第 11 回世界健康長寿学会
合同学術集会

プログラム・抄録集

◇日　時◇

2024 年(令和 6 年)

10 月 4 日(金) 13:20 ～ 5 日(土) 16:40

◇会　場◇

横谷温泉旅館(長野県茅野市)

主　催:一般社団法人ヘルシィエイジング学会

世界健康長寿学会

第 16 回ヘルシィエイジング学会/第 11 回世界健康長寿学会
合同学術集会開催に向けて

第 16 回ヘルシィエイジング学会/第 11 回世界健康長寿学会合同学術集会長
NPO 法人健康福祉実践協会理事長
世界健康長寿学会会長
今井敬喜

「国家」を中核とする世界規模の戦争に始まり、「殺戮と排除」の 20 世紀を過ぎ 21 世紀に入って既に久しく、十年一区切り、二区切り目の半ばを過ぎてもなお、この狭い地球に住む人間同士の醜い争い・正義の名の下の殺戮は後を絶ちません。その上、このかけがいのない地球を揺るがす「天変地異」は日常茶飯事となっています。万物の長を自負する人間がどうしてこのような仁義なき戦いを際限なく続けるのでしょうか。じっくり東洋の偉人マハトマ・ガンジーの言葉を胸に瞑想してみようではありませんか。

【人間が犯してはならない七つの大罪】

① 感性なき知識
② 人間性なき科学
③ 良心なき快楽
④ 犠牲なき信仰
⑤ 労動なき富
⑥ 道義なき商い
⑦ 原則なき政治

この地球に生物が誕生して以来 38 億年、気の遠くなるような年月を経て達成された生物多様性。46 億年前大宇宙（Macrocosm）の一点として誕生した地球、更にその内に微小な一点として生まれた生物（Microcosm）。500 万種にも連すると言われる生物種、過酷な大宇宙（物質の世界）の変化に適応し、この世界（地球環境）と物質交換（代謝）しながら、相生相克を繰り返しようやく達成された「調和と均衡」の生態系：生物圏（生物の世界）。ミクロの世界もマクロの世界も天（Something Great）の微妙な調整の下に＜境を接し共生して＞生きているのです。

本学術集会は、信州の地で大自然の恵みを享受しながら参加者の皆さんにも討論に加わって頂き、充実した会にしたいと考えています。ぜひ、ご協力と積極的なご参加を宜しくお願い申し上げます。

第 16 回ヘルシィエイジング学会/第 11 回世界健康長寿学会
合同学術集会プログラム

2024 年 10 月 4 日（金）～ 5 日（土）
横谷温泉旅館

【テーマ】　～ 人と地球の健康を同次元で考える　～
「身土不二＆医食農同源」

10 月 4 日（金）

13:20～13:50　**開会のご挨拶**
第 11 回世界健康長寿学会学術集会長　現代人間科学研究所所長　上海大学客員教授　飛岡 健

14:00～16:50　**《 分科会 Ⅰ》**

17:10～18:00　**《 地元来賓祝辞 》　『デジタル田園都市構想の現状と今後の展開』**

18:00～20:30　**《 情報交換会 》**　（於：1 階　八ヶ岳）

10 月 5 日（土）

7:30～ 8:20　**《 健康ウォーキング 》 ～ 横谷渓谷散策 ～　（自由参加）**
共催：一般社団法人足育研究

9:30～10:20　**《 会長講演 》　人と地球の健康を同次元で考える『身土不二』**
合同学術集会長 NPO 法人健康福祉実践協会理事長 世界健康長寿学会会長　今井敬喜

10:30～11:20　**《 特別講演１》　『医食農禅同源』ヒトは食べたものになる　身も心も魂も**
認定農業法人（株）JAPAN BGA、上海豊盈生物技術ｾﾝﾀｰ代表取締役　医学博士　温 中申

11:30～12:20　**《 特別講演２ 》　『経絡を使った高齢者にやさしいリハビリ』**
～　皮膚刺激および筋膜間滑走性の改善による疼痛緩和　～
日本医療科学大学　保健医療学部　理学療法専攻　教授　本橋みどり
日本医療科学大学　保健医療学部長・リハビリテーション学科長　教授　伊藤芳保

13:30～16:20　**《分科会 Ⅱ》**

16:30～16:40　**閉会のご挨拶**
公益社団法人能楽協会　一般社団法人日本能楽会会員　狂言方大蔵流能楽師　善竹十郎
合同学術集会長　NPO 法人健康福祉実践協会理事長　世界健康長寿学会会長　今井敬喜

※ 両日とも講演会場は分科会を除いて全て**２階宴会場「葵」**となります

10月4日（金）

14:00～16:50　《 分科会 Ⅰ 》

セッション	A	B	C	D
会場	宴会場「葵」	すずらん	しゃくなげ	いわかがみ
1 14:00 ～ 14:50	65歳から「長寿の家」 『人生100年を 見据えた家づくり』 一級建築士事務所 アトリエ4A	『がんリスク評価検査 CanTectとCRAB- Uのご紹介』 共催： ㈱ジーンサイエンス 代表取締役　福住俊男	『Stop慢性腎臓病』 私の戦略 ﾍﾙｼｨｴｲｼﾞﾝｸﾞ学会会長 ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ市川駅 院長　佐中　孜	『日本ではまだ見ぬ 韓国の最新医療』で 美しく健康に年を重ねる 共催： ㈱KTS日本駐在 専門カウンセラー 牛島姫子
2 15:00 ～ 15:50	『トレーラーハウス 活用による ピンピンきらり 人生』 共催： 株式会社カンバーランド・ジャパン 代表取締役　原田英世	『がん予防と免疫調節 としての金太郎細胞』 共催：㈱金太郎 Cells Power 代表取締役 アレクセイ・グラドコフ 医療顧問　大沼　聡	『健康増進と 土壌改良』 共催： ホウヨウネット株式会社 久保木　豊	『自然界に存在する 生命力を活用した インナービューティ』 共催：株式会社プロラボホールディングス コンサルティング事業部 小平真実
3 16:00 ～ 16:50	『マイコプラズマ感染 症予防未病医療DX』 早期診断治療に向けて エムバイオテック 株式会社 マイコプラズマ 感染症研究センター センター長　松田和洋	『桃太郎ワクチン』 がん治療と予防の 新しいアプローチ 共催：㈱金太郎 Cells Power 代表取締役 アレクセイ・グラドコフ 医療顧問　大沼　聡	『医食農福連携の実 践』安心・安全・美味 しい米粉パンで支える 高齢者の健康と福祉 共催： 医食農同源株式会社 代表取締役　久堀 博	『未病をテーマとした “還元電子”を体験す る体験会』 共催： フォトンライフ株式会社 代表取締役　内山修一

10月5日（土）

7:30～　8:20　　《 健康ウォーキング 》 ～ 横谷渓谷散策 ～　（自由参加）

共催：一般社団法人足育研究会

旅館エントランス前に 7:30 にお集まり下さい。
朝食前のひと時、ウォーキングの専門家の指導の下、正しい姿勢、正しい歩き方を学んで、健康ウォークを楽しみましょう。（荒天の場合は室内での歩行教室と致します。）
《 足の測定会 》 9:00～16:30　を（宴会場「葵」）で行なっております。
専門家が貴方の足のサイズ、特徴を正確に測定します。空いた時間にお立ち寄り下さい。

13:30～16:20　　《 分科会Ⅱ 》

セッション	A	B	C	D
会場	宴会場「葵」	すずらん	しゃくなげ	いわかがみ
4 13:30 ～ 14:20	『足先からの健康長寿』 共催： (一社)足育研究会 医師　代表理事 高山かおる	『精密な治療としての腫瘍溶解ウイルス療法』 共催：Guangzhou Virotech Pharmaceutial Co., Ltd　庄暁桐	『縄文からつづく大麻文化』 著述家　長吉秀夫	《 一般演題 》 1)経穴におけるヘモグロビンの反射光波長特性測定による自律神経機能評価の検討 日本医療科学大学 平井紀光
5 14:30 ～ 15:20	『100 歳まで元気に歩ける歩き方講座』 (一社)足育研究会 理事　黒田恵美子	『健康長寿のためのヘルスリテラシー』 元日本医療科学大学 保健医療学部 教授 医学博士 別所文雄	『山の幸染めと麻』 共催： NPO 法人 山の幸染め会 代表理事　隆久昌子	『量子測定機と水』 共催：合同会社 楽箱 代表　長田　勉
6 15:30 ～ 16:20	『足元からの健康づくり・動きづくり』 アスリートも愛用，長野発祥,草履サンダルの効果 石川県立大学教授 宮口和義	『Aging Technology で Healthy Aging を実現することができるのか？』～ 海外との事例の比較から考える ～ 日本次世代型先進高齢社会研究機構代表理事 千葉大医学部附属病院 特任准教授 阿久津靖子	『CBD を正しく知ろう』 共催： CBD 普及協力会 株式会社こころ	『発声のススメ 』 対談と実践 狂言方大蔵流能楽師 善竹十郎 (一社)日本朗読検定協会 音読ヘルストレーナー 今井理恵子

《会長講演》 人と地球の健康を同次元で考える『身土不二』

合同学術集会長 NPO 法人健康福祉実践協会理事長 世界健康長寿学会会長　今井敬喜

「国家」を中核とする世界規模の戦争に始まり、「殺戮と排除」の 20 世紀を過ぎ 21 世紀に入って既に久しく、十年一区切り、二区切り目の半ばを過ぎてもなお、この狭い地球に住む人間同士の醜い争い・正義の名の下の殺戮は後を絶ちません。その上、このかけがいのない地球を揺るがす「天変地異」は日常茶飯事となっています。万物の長を自負する人間がどうしてこのような仁義なき戦いを際限なく続けるのでしょうか。じっくり東洋の偉人マハトマ・ガンジーの言葉を胸に瞑想してみようではありませんか。

【人間が犯してはならない七つの大罪】

① 感性なき知識
② 人間性なき科学
③ 良心なき快楽
④ 犠牲なき信仰
⑤ 労動なき富
⑥ 道義なき商い
⑦ 原則なき政治

この地球に生物が誕生して以来 38 億年、気の遠くなるような年月を経て達成された生物多様性。46 億年前大宇宙（Macrocosm）の一点として誕生した地球、更にその内に微小な一点として生まれた生物（Microcosm）。500 万種にも連すると言われる生物種、過酷な大宇宙（物質の世界）の変化に適応し、この世界（地球環境）と物質交換（代謝）しながら、相生相克を繰り返しようやく達成された「調和と均衡」の生態系：生物圏（生物の世界）。ミクロの世界もマクロの世界も天（Something Great）の微妙な調整の下に＜境を接し共生して＞生きているのです。

この《天の配剤》に唾し、調和（Homeostasis）を破るものには因果応報、必ずその報いがやってくるのです。『身土不二』の仏教的解釈です。ガンジーが示した「人間としての生き方」は正にこの原則を具現化した時空を超えた普通的な指針なのです。辛苦の体行の末に到達した“生きとし生けるもの”全てに達する愛。肝に銘ずべき金科玉条、人間として【不退転の生き方】なのではないでしょうか。

日本の聖：空海はその著「即身成仏義」の中で『六大無凝にして常に喩伽（yoga）なり』と諭しています。【六大】とはインド人の言う「宇宙」即ち地・水・火・風の四つの構成要素（四大）に＜空＞を加えて五大とし、密数では更に精神的要素：『識』を加えて宇宙の構成要素としたものです。

この六大（Macrocosm）が自由自在に融通して障りがなく、しかも相応され（喩伽）、一如になっているというのが、この言葉なのです。正に【梵我一如】の密教の真髄です。

18 世紀欧米で始まった産業革命は人間社会に幾多の功徳をもたらしたことは否定できませんが、それに資本主義経済、更に“限りなき欲望”に支配された金融資本主義への限りなき傾斜は果たして現未来社会に『功徳』をもたらすかは、はなはだ疑問です。一部の限りなき緊業は、その降で多数の貧困と餓死を生んでいます。未だに多くの人間は己を超えた『菩薩の愛』も達しえず、したがって低次元の欲望に支配されたまま【超自我的欲望】にまで達しきれていないのです。

「世」を動かしていると自負する者は、今、自分がどんな欲望に動されているか充分知って（知命）行動すべきではないでしょうか。「仕事」とは『人に仕える』ことなのではないでしょうか。「働く」とはただ人が動くことのみを意味しているのではなく、『傍を楽にする』とだと謂います。

苦役の末に聖になった弘法大師：空海は「秘密曼荼羅十住心論」の要約の冒頭詩に

“三界の狂人は狂せることを知らず　四生の盲者は盲なることを識らず

生れ生れ生れて生の始めに暗く　死に死に死に死んで死の終わりに冥し”

とある。【三界】とは我々の住む世界。【四生】とはあらゆる生き物。凡夫は狂い、真理に盲目だ。

さらに困ったことに、いくら流転輪廻を繰り返しても、己の盲目さに気付いていない。いや気付こうとする意志も動かない。ここから人間は出発し、次の十段階を経て一歩一歩成長するのだという。

＜十住心論＞

1. 異生羝羊心：凡夫は迷いつつ、わが迷いを知らず。ただ性と食のみを思う。雄羊のごとし。
2. 愚童持斎心：何か縁によりて、たまたま節食を思う。穀物の種が蒔かれ発芽するようなもの。
3. 嬰童無畏心：天界に生まれ、しばしの安心。嬰児と子牛が母に抱かれるがごとし。
4. 唯蘊無我心：ただ物のみありて、実体なきを知る。教えを聞いて悟る者は、この段階。
5. 抜業因種心：いっさい因縁より成るを知り、無明の種を除き、ただ独り悟りの果を得る。
6. 他縁大乗心：衆生に対する大慈大悲の心を起こし、すべてが識にして対象なきを知る。
7. 覚心不生心：すべてを空と観ずれば、執着が断ち切られ、心は静まって安楽。
8. 如実一道心：現象は差別なく清浄であり、主観と客観とが合一している。そのような心の本性を知る者を仏（大日如来）という。
9. 極無自性心：水にそれ自体定まった性はない。風起きて波が立つ。悟りの世界は究極が無く、どこまでも深まる。
10. 秘密荘厳心：顕教は塵を払うだけ、真言密教が庫の扉を開く。開けば秘宝がたちまち現われ功徳が実現される。

私達、現代人は、果してどの段階の欲望に支配されて日常を送っているのでしょうか。考える間もない忙しさに、この来し方行く先をひと時も考える余裕もなく、ただ己の低次元の欲望に溺れて、寄り付く縁さえもつかめず流れ流され、迷いに迷い、何時の間にか三歳児のまま老化し人生の終着駅まで達してしまっているのが現状ではないでしょうか。こんな時［十住心論］は良い指針です。

福祉の原点

＜自分がその立場に置かれたら、どう感じ、何をして欲しいかを真剣に考えることだ＞

《 演者略歴 》

今井敬喜（いまい　けいき）

東京医科大学卒業
元根室病院院長
元昭島病院院長
NPO 法人健康福祉実践協会　理事長
世界健康長寿学会議長
御徒町東口クリニック　院長

《特別講演１》　『医食農禅同源』ヒトは食べたものになる　身も心も魂も

医食農禅同源の理念に基づく
次世代型オーガニック食文明、農耕文明と健康文明を創出します
～ 伝統的な生命哲学と先端科学技術を融合する農食健一体化事業 ～

認定農業法人㈱ JAPAN BGA 上海豊盈生物技術ｾﾝﾀｰ代表取締役 医学博士 温 中申

背景(Why & What)

医学者として何故人の治療から土壌の治療にするか？
現代人類の食とその元である農業に直面している深刻な問題：
環境借金(Environmental debt)
隠れた飢餓(Hidden hunger)
現在農産物の機能性成分が失っている現状
人類はなぜオーガニック食が必要か
人類が解剖学的に変わらない限り、これから AI 等技術が如何に進化してもいくら仮想社会になっても、食とその元である農業、そして健康づくりはさらにオーガニック化が要求される
伝統的なオーガニック農業と慣行農業の限界

方法（How to do it）

細胞分子栄養学から見る人類の食と農業の本質
環境健全とヒトの健康は One health One life
生命科学から見る人類食の六大属性
六大属性を備える農産物の栽培システムの開発
伝統的な生命哲学と先端科学技術を融合して土壌本来の生態系を取り戻す
土壌エコシステムの三大多様性の相乗効果
植物が動くないので植物の視点から自然の摂理を解析する
植物の二次代謝と医食農同源の関係
オーガニック栽培の関数モデルを解析して、オーガニックを再定義する
オーガニック農業をハイテク化する
農業現場で栽培者の意識状態が植物に対する影響の試験と医食農禅同源
次世代 EPA 農食健一体化栽培保障システム
“Eating is an agricultural act”食べることは農業的行為である
生産者と消費者の共生システム

具現化(Embodies)

薬やサプリメントに頼らず日々の食生活を通じて健康増進と病気予防もできる農産物を安定に栽培と提供して、医食農同源を具現化する事業の展開
六大属性を備えた薬膳菜果Ⓡブランドのコンセプト
伝統的な有機 JAS を進化した医食農禅同源に基づく新しい BIO 基準
薬膳菜果Ⓡシリーズ農産物を実業化する例
医食農禅一体化する新縄文コミュニティ
次世代型オーガニック食文明、農耕文明と健康文明を創出します。

《 演者略歴 》

温　中申（NAKAYAMA HIROSHI）

医学博士（M.D.MA 代替医学専門）、スポーツ医学とスポーツ心理学専門家として中国オリンピック選手の健康管理と統合医療医師として活躍した。

1986 年から筑波大学の研究員として招聘されて、予防医学の研究分野で食事療法を含め統合医療による生活習慣病の予防と治療を研究した。研究中子供の病気の臨床データの分析と食事療法の失敗例から気がついたのは、現在の農産物の中に満腹感を満たす成分が充分に保障されているですが、本来があるべき健康機能性成分がかなり少なくなっている現象、つまり古来医食同源の成分がかなり少なくなる深刻なメタボ化の健康問題です。そこから医食農同源についての研究開発を没頭している。

医食農同源の理念でオーガニック農業の自然摂理を解析したエビデンスに基づいて次世代型オーガニック農業技術を系統的に研究開発した。

世界初の人体細胞分子栄養学にマッチングした環境と健康にこだわる EPA 農法(温式農法）で土壌の生態系の修復を始め、種苗の最適化、精密に栽培と無毒防除から食卓へ、さらに人体細胞内健康まで一貫制技術体系を確立した。

日本初有機 JAS と機能性表示二重認証したミニトマトを商品化した。

現在、八ヶ岳で自社所有するアジア医食農同源モデルファームを経営しながら医食農禅の具現化事業で次世代型オーガニック食文明、農耕文明と健康文明を創出している。

《特別講演２》　『経絡を使った高齢者にやさしいリハビリ』

～　皮膚刺激および筋膜間滑走性の改善による疼痛緩和　～

日本医療科学大学　保健医療学部　理学療法専攻　教授　本橋みどり
日本医療科学大学　保健医療学部長・リハビリテーション学科長　教授　伊藤芳保

現在の日本では、高齢化が進み日常生活を如何に維持していくかが課題になっている。加齢に伴い筋力の低下や身体アライメントの変化などにより疼痛を訴える方が増加している。また、社会構造の複雑さから人間関係の歪みをもたらし、その結果として「ストレス」が精神面及び身体面の両方に影響を及ぼしている。精神面では、混乱や必要以上の不安・抑うつを引き起こし、身体面では、動悸や発汗など自律神経活動が関わる諸症状が引き起こされ、このことが筋の緊張へと繋がり、慢性疼痛の原因になっている。厚生労働省の調査では、60 歳以上で日常生活における機能制限があると回答した者は全体の７割を占めている。また、有訴率の第１位と第２位は男女共に腰痛と肩こりであり、次いで手足の関節の痛みや頭痛が挙げられている。この疼痛は基本動作能力や日常生活活動の遂行を阻害する大きな因子の１つとして挙げられる。

疼痛緩和の方法として、西洋医学では、EBM と言われる科学的根拠の基に人間共通の客観的治療が行われている。これまで、疼痛緩和の効果を得るためには時間を要する事も多く、時に西洋医学をベースにした治療に限界を感じることがある。反面、東洋医学では疼痛緩和や未病への対策といわれるものを得意としている。東洋医学は数千年の歴史の中で、経験として治療方法や効果が蓄積され、独特の治療体系で解釈されてきた。また、「経絡」や「経穴」といった解剖学的に立証されていない事柄に対し、西洋医学の視点からは理解しにくく、治療の選択肢として受入れ難さがある。しかし、近年では東洋医学も含め様々な分野で研究が進められ、科学的に作用機序が明らかにされてきている。

今回紹介させて頂く中の１つに、軽微な皮膚刺激を用いて疼痛を緩和させる方法があり、この作用に対するメカニズムが明らかになった。また、筋膜に対する研究も進み、次第に筋膜の役割や特徴も明らかになってきている。筋膜は身体の全体を覆い、第２の骨格とも言われている。この筋膜の硬化や筋膜同士の滑走性が悪くなることが、疼痛を引き起す原因と考えられている。さらに、筋膜の走行が経絡と非常に類似していることも知られるようになってきた（Thomas W.Myers:Anatomy Train）。

今回は、向野氏が提唱する経絡を利用した「M-テスト」と持続的な皮膚刺激を与えることができる東洋レヂン社作製の「SOMANIKS」を利用した疼痛緩和と、筋膜間の滑走性を改善させることで疼痛の緩和と関節可動域の拡大をさせるアプローチについてデモンストレーションを加えながら、体験をして頂きたいと考えている。

紹介させて頂いた手段は、ごく一部であるがこのような方法を利用することで、疼痛から開放され、さらに豊かな日常生活を営むことを願う次第である。

《 演者略歴 》

本橋みどり

所属：日本医療科学大学　リハビリテーション学科理学療法学専攻　教授
資格：理学療法士・鍼灸師
略歴：国際医療福祉大学大学院博士課程修了（保健医療博士）
職歴：東京都多摩老人医療センター
　　医療法人真正会　霞ヶ関南病院
　　城西医療技術専門学校　理学療法学科専任講師

伊藤芳保

所属：日本医療科学大学　保健医療学部長・リハビリテーション学科長　教授
資格：理学療法士・柔道整復師
略歴：国際医療福祉大学大学院　医療福祉研究科　博士課程修了（保健医療学博士）
　　日本柔道整復専門学校　柔道整復学科　卒業（医療専門士）
　　国際医療福祉大学大学院博士課程修了（保健医療学博士）
職歴：埼玉医科大学病院
　　医療生協　わたり病院
　　医療法人　狭山中央病院
　城西医療技術専門学校　理学療法学科専任講師

分科会　抄録

※ 以下のセッションについては本抄録集に抄録の掲載がございませんのでご了承下さい。
当日の資料配布または口頭での発表となります。

- C5 『 山の幸染めと麻 』
- D5 『 量子測定機と水素 』
- C6 『 CBD を正しく知ろう 』

A1 『人生 100 年を見据えた家づくり』
65 歳から「長寿の家」

一級建築士事務所　アトリエ 4A　代表　天野　彰

２S+３Ｆの家が重要？

まずは住まいの安全と健康な老後の暮らしを見つめること。そして何より自立の姿勢を変えることです。住まいを見ることは生きること、いや“活きる意識”のリノベーションと言える。

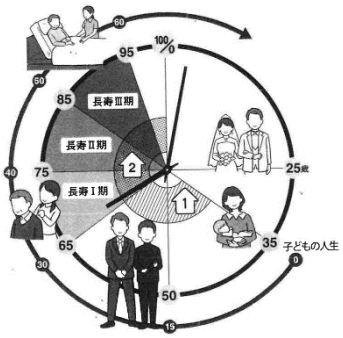
２SのSはセルフディフェンスのSとセルフサポートのS。

３FのFは人と家の障害のないバリアフリーのFとエネルギーフリーのF

そしていつまでも安心できるメンテナンスフリーの３つのF。

老後に強い長寿の家はわが人生の時計を見ること

「人生１００年のアナログの時計の文字盤」を描き、そこに自分(親)の姿と人生を描く。そこではじめて家の様子と、どうすべきかが見えてくる。



６５歳は老前、これからを 10 年周期で人生と家を考える。

毎日を明るく、楽しく、社交的に暮らす。これからこそ心身の変化を細やかに 10 年で区切ってみると、老前一期（65 歳から 75 歳)。老前二期（76 歳から 85 歳)。そして老前三期、老中か？（86 歳から 95 歳)。三期まできたらここではじめて老後と考える！この輝きを秘めた「長寿の家」をどうつくり、どうすごすか。

老中の関門には　ロコモ・サルコ・フレイルがある？

身体的な変化を示す医学・健康の概念が、ロコモ・サルコ・フレイル。簡単には身体が老いとともに弱っていく段階。

これこそが住まいかたと家に直接関係がある。「長寿の家」は、ロコモ、サルコ、フレイルを極力先に押しやり、そして受け入れなければならない。

３つの虚弱化していくステップとは

ロコモはロコモティブシンドロームのことで、運動器症候群。体を支えている骨、関節、神経に支障が起き「階段を上り下り」「衣服の着脱がスムースにできない」「長寿の家」が筋トレとバランス運動を含む家であれば好都合。個人差はあるが、長寿一期である 65 歳から 75 歳までの暮らしではらくにできる

サルコはサルコペニア、筋肉減少。転倒するなど身体機能が低下し自信がなくなる。いろいろ自分で考え、工夫し筋トレとバランス運動のプライベートジムとなる。

フレイルとはフレイルティー、まさに虚弱のこと、要介護の病人予備軍トイレと風呂を改造する必要も出てくる。長寿の家はこういう流れを読んだ上で設計、または改造可能な位置取りにする。

交通事故より多い家庭内事故死

無理なつくりの急な階段も多く、転落事故の原因となっていることが多い。

ゆっくり“行って来い”式の踊り場のあるＵターン階段？

これなら運悪く転がり落ちても半階ですみ、両側手すりで踊り場を広く取って憩いの場とするのです。まさしく３Ｓには 3Uも重要なのです。

災害や地震に勝つ！想像力で住まいの長寿を！

自助・自立　車いすより這ってでも活きる「長寿の家」

バリアフリーの家は、必ずしも車いすで暮らせる家だけでなく。ベッドからトイレ、浴室へと自力で腰をずらして移動できるベンチ式や、そのまま洗い場のスノコまで這って行って横たわったままシャワーを浴びるなどあくまで自立を考える。さらに想像して自立の生活をする。

スノコのシャワー入浴　ベンチ式トイレと浴槽ずれて行くだけ（R 邸）

すなわち住まいや部屋が住む人をサポートしてくれ家づくり、そしてリフォームが大切。

《 演者略歴 》

天野　彰（あまの　あきら）

愛知県岡崎市生まれ。日本大学理工学部経営工学・建築卒業　建築家。

一級建築士事務所アトリエ４A 主宰。建築家集団「日本住改善委員会」を組織し生活に密着した住まいづくりやリフォーム。さらに医療・老人施設などの建築が多い。設計の傍ら TV、講演、新聞、雑誌と多方面で活躍。また元通産省産業構造審議会委員はじめ厚生労働省大規模災害救助研究委員、企業・組織技術顧問などを歴任。「建築仕上学会理事」「シニア社会学会理事」「日本建築学会会員」「建築士会会員」など。

主な著書に、『リフォームは、まず 300 万円以下で』（講談社）、　『地震に勝つ家負ける家』（山海堂）　『建築家の考える家相の良い家」（講談社）『二世帯同居住宅のつくり方』（講談社＋α新書）『六十歳から家を建てる』（新潮選書）『転ばぬ先の家づくり』（祥伝社）　『「おひとりさま」の家づくり』（新潮新書）『脳が若返る家づくり・部屋づくり』（廣済堂出版）『50 代から考える住まいのリフォーム』（KDOKAWA）そして･･･新著に『６５歳から考える長寿の家』（さくら舎）などがある。

ハウスネットギャラリー『住まいの情報』にて毎週快適コラム配信中。
ホームページは　　http://www.amanoakira.com

B1 『がんリスク評価検査 CanTect と CRABU のご紹介』

共催：株式会社ジーンサイエンス

株式会社ジーンサイエンス 代表取締役　福住俊男

日本では 2 人に 1 人ががんになり、3 人に 1 人ががんで亡くなると言われています。毎日 5,000 回ぐらい起きると言われる遺伝子のコピーエラーによって出来たがん細胞の原型が、5～20 年ぐらいかけて 5 ㎜ほどの大きさに成長すると映像に映り、がんが発見されます。

若い時には免疫力がありますので、がん細胞の原型ができてもそれを殺すことができますが、年をとっても若い時と同じ生活習慣を続けていると、次第にがん細胞が成長しやすい体内環境ができ、がんになるリスクが高くなります。しかし体内環境が、がん細胞を成長させやすいか否かは数値化する検査が今まではなく、多くの方はお医者様を含めて、がんは早期発見が大切だと思いこまれています。がんを早期に発見し、初期の段階で治療をするという事では早期発見は大切ですが、毎日がん細胞の原型を作り、すべての人ががん細胞をすでに持っているという前提でがん予防を考えれば、体内環境ががん細胞を成長しやすいか否かを数値化し、リスクが高い人には、リスク軽減をするために生活習慣の改善をしていただくのが、がんにならないために重要ではないかと考えております。

弊社で行っている血液で行うがんリスク評価検査、CanTect は、がん関連遺伝子の発現量や血中の cfDNA の濃度などを変数として、がん患者と健常者を識別する式を統計的に作り，がんになりやすいか否かを 0～100 の数値で表示します。さらにそれを 25 刻みに、A、B、C、D という 4 つのリスクレベルに分けて、リスクを見える化し、それぞれのリスクレベルに応じた生活習慣の改善策をお医者様から勧めていただいております。既に6,300 検体以上の実績データがありますので、その解析結果についてもご紹介いたします。

また尿で行うがんリスク評価検査、CRAB-U についてもご紹介いたします。これは尿に出てくる cfDNA 濃度、8-OHdG、Na、K、pH などを測定し、CanTect と同じく、0～100 の数値でリスク評価をし、A、B、C、D という 4 つのリスクレベルに分けてリスクを評価します。

現在では、がん細胞が何故でき、どのようにして成長するかはほぼ分かっていますので、がん細胞が成長しにくい生活習慣を行うことによって体内環境を整えれば、がんが見つかる大きさに成長する前に、がんを予防することができます。こうしたがん細胞が成長しにくい体内環境をどのように作るかについても、簡単にご紹介いたします。

C1 『Stop 慢性腎臓病』
私の戦略

医療法人社団靭生会　ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ市川駅院長　ﾍﾙｼｨｴｲｼﾞﾝｸﾞ学会会長　佐中　孜

慢性腎臓病は日本人の約 8 人に 1 人が CKD を有しているといわれており、新たな国民病と言われてから久しい。

慢性腎臓病への対策としては、原疾患への診断と治療はもとより、糖尿病、動脈硬化症、心疾患、腸疾患、生活習慣など実に様々な観点からアプローチされていることは言うまでもないが、これらについては日本腎臓学会からも多岐にわたっての治療的方策がガイドラインとして発信されている。

今回取り上げる食事療法・栄養管理、尿毒症物質対策についても例外ではない。

1）食事療法・栄養管理

日本腎臓学会が提唱、発刊する CKD 診療ガイド 2024 から抜粋であるが、CKD 患者の栄養管理については次のように記載されている。

a） たんぱく摂取量は，CKD ステージ G1～G2（eGFR60ml/min 以上） では過剰にならないように注意する。ステージ G3a（eGFR　60～45）では 0.8～1.0 g/kg/日，ステージ G3b（eGFR45～30）では 0.6～0.8 g/kg/日、カリウム摂取量 2ｇ/日以下で指導することを推奨する. ステージ G3b 以降（eGFR30）でもたんぱく摂取量は 0.6～0.8 g/kg/日であるが、腎臓専門医と管理栄養士や腎臓病療養指導士などを含む医療チームの管理のもとで実施することが望ましい.

b） 食塩摂取量の基本は、6.0 g/日未満であるが，高齢者など個々の対象に応じて無理のない目標を定める場合もある.

c） 24 時間蓄尿検査による食塩摂取量やたんぱく質摂取量の評価は CKD の栄養管理において有益である。

2）尿毒症物質対策

本項に関しても日本腎臓学会が提唱、発刊する CKD 診療ガイド 2024 からの抜粋であるが、CKD ステージ G3b ～ G4（ eGFR45～15ml/min）では，ほかの標準的な治療に加えて球形吸着炭内服療法を併用することにより，CKD 進行の抑制効果が得られる可能性があると記載されている。更に、球形吸着炭は，ほかの薬剤とは同時に服用しない．他剤を併用する場合，30 分から 1 時間ずらして服用すること（球形吸着を食後 30～1 時間空けて投与・服用）。

加えて、球形吸着炭により便秘など消化器系合併症を生じることがあり，注意が必要であるとも記載されている。

以上のようにきめ細かく記載されているガイドラインの登場で Stop 慢性腎臓病の目標の達成の切っ掛けが生まれつつあると推察されるが、これらに加えて、演者はどのように考え、実践しているかについて実臨床医の立場で報告したいと考えている。

《 演者略歴 》

佐中 孜（さなか つとむ）

	演者 佐中（サナカ） 孜（ツトム） 略歴
学歴	鳥取大学　医学部　　1965年４月入学（18歳）　　1971 年3月卒業（23歳）
免許・資格	医師国家試験 1971 年　（医籍番号；210118） 1978年　医学博士
国外留学	California　State　Univ. Davis（1980-1981） New York State Univ. Downstate Medical Center（1987）
職歴	1971年（23歳）鳥取大学医学部附属病院研修医　1973年4月（25歳　東京女子医科大学入局 1998年10月（52歳）～2011年 9月（65歳）：東京女子医科大学医学部教授・東医療センター（教授） 2006年4月～2008年3月：和洋女子大学家政学部教授 2009年～2011年：東京女子医科大学先端生命医学研究所教授（兼務） 2009年10月～2014年9月：日本大学医学部（客員教授） 2011年10月～現在：社会福祉法人仁生社江戸川病院生活習慣病CKDセンター長 2011年11月～2013年3月：医療法人社団靭生会メディカルプラザ篠崎駅西口院長 2011年10月～現在：医療法人刀水会齋藤記念病院（名誉院長） 2013年4月～現在：医療法人社団靭生会メディカルプラザ市川駅（院長） 2018年 2月～現在：医療法人弘仁会板倉サテライトクリニック（名誉院長）
学会学術集会・総会	1999年　第5回日本腹膜透析医学会会長 2009年　第54回日本透析医学会学術集会・総会会長
学会	日本内科学会認定医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医 日本透析医学会名誉会員、日本移植学会名誉会員、日本人工臓器学会名誉会員、 日本アフェレーシス学会名誉会員、ヘルシーエイジング学会会長
賞罰	賞；2016年　国民健康保険事業表彰　厚生労働大臣賞、2017年　医療保険制度表彰　厚生労働大臣賞、 2023年　腎不全医療功労表彰　日本腎臓財団賞 罰；なし
著書	1992年（46歳）　慢性腎不全保存期のケア（第１版）～透析療法を避けるために（医学書院） 1997年　慢性腎不全保存期のケア（第２版）～透析療法を避けるために（医学書院） 2005年　慢性腎不全保存期（慢性腎臓病）のケア（第3版）～寛解を目指して（医学書院） 2013年　CKD早期発見・治療ベストガイド～寛解につながる慢性腎臓病へのアプローチ（医学書院）
その他公的活動	独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）委員 AAHRPP認証HURECS臨床治験審査常任委員

D1 『日本ではまだ見ぬ韓国の最新医療』で
美しく健康に年を重ねる

共催：株式会社 KTS

株式会社 KTS　牛島姫子

人間は日々老いている。体力、気力、脱毛、老眼、老顔、病気など、生きることは老化との戦いと言える。韓国では、美しくて健康に生きるための、予防的、アンチエイジング的な医療が特に発達している。

1．韓方クリニック

予防医学に基づいて診察と処方、治療ができる韓方クリニックの韓方医師。

癌や、アルツハイマーなどの病気の予兆を科学的な検査に基づいた診断により韓方薬で予防治療が可能。

2．美容韓方クリニック

韓方医師はいわば、日本でいわば「内科医」と言える。韓方医師免許を取得した韓方医師が美容韓方を勉強して美容に特化したクリニックでアンチエイジング。頭蓋骨矯正童顔。

3．歯科

日本では高いインプラント。韓国だと手術費込みで 1 本 20 万円。

全体入れ歯の人も、総インプラント 350 万円で手術費と、歯茎移植費用込み。

安くて高い技術により、誰もが綺麗で美しい歯で生涯過ごせる。

4．婦人科と男性泌尿器科

婦人科は、尿漏れや膣乾燥など、婦人科疾患とは縁がなかった女性にも閉経と共に乙訪れる婦人科治療がお手頃価格で、婦人科と、美容整形が一度の睡眠麻酔で痛くない、怖くなく、治療が受けられる。

男性泌尿器科では、生涯において、若く、楽しく性生活が楽しめるなど。

5．人間ドック 10 万円

胃の内視鏡検査（睡眠）を含む 100 種類の検査を 1 度で可能

CT 検査、超音波検査（28 項目検査）、精密な血液検査、上部消火器検査、心電図、骨密度検査、身体測定、専門医診療など

6．眼科

老眼、視力矯正、白内障を一度の眼内レンズ手術で解消。

2 泊 3 日韓国滞在で可能。日本には無い最新多焦点眼内レンズがお手頃価格。

7．美容整形外科

日本にはない「美容整形専門医」制度により、高い技術とお手頃価格で、プチ整形から、アンチエイジング美容整形など、人生を変えられる美容整形。老眼から脱出。若々しい外見と体力で退職後を過ごせる。

A2 『トレーラーハウス活用によるピンピンきらり人生』

共催：株式会社 カンバーランド・ジャパン

株式会社 カンバーランド・ジャパン　代表取締役　原田英世

トレーラーハウス活用は諸外国（米国）等では多様に活用されております。
少子高齢化が進む中、日本人一人一人が楽しく自分らしく生きる為の方法の１つにトレーラーハウスの活用をご紹介します。
建物を建てられない農地に若者が就労したり離れ小島に別荘を建てたり不要になったら転売できる新しい生活様式を知る事で、人生観が変わるかもしれません。
農地活用～コロナ対策、令和６年能登半島地震対応に至る、最新情報をお伝えします。

1. トレーラーハウスの歴史と日本の法令
   米国では 100 年の歴史ですが、日本政府も 1997 年
   トレーラーハウスの輸入を解禁しました。

2. 農地活用（農業体験型宿泊所や飲食店の設置）
   建物が建てられない農地に住む！！
   トレーラーハウスが解決のヒント。

3. 人生を楽しく（離れや別荘）等とした活用
   別荘、子供部屋、年寄りの介護部屋等建てたいけど厳しい、皆一緒にいたいけど、負担が大きい。トレーラーハウスなら可能かも！

4. 投資が安価であり、維持管理費が安い（住宅と比べる）
   建物を建てて賃貸するよりもお手軽で、地主としては地上権が発生しない為、安心。

5. 中古で転売が可能な為、資金回収が出来る。離れや別荘を建てても転売は厳しいトレーラーハウスなら転売が容易。昨今、中古市場も活発で高値販売が続く 10 年経った建物をあなたはいくらで買う？？

6. 中古で転売が可能な為、建築廃材を出さない「ＳＤＧ’ｓ」
   建物は移動できないが、移動できるからこその転売、建築廃材費は不要です。

7. 地震の影響を受けにくい
   根本的に振動による倒壊はしにくい構造です。
   よって地震保険も不要です。

皆様のこれからの人生の参考になりましたら幸いです。
本日は国土交通省住宅局局長表彰の授与式を失礼して
講演させて頂きます。

米国製トレーラーハウス

農地活用ワーケーション長野県飯島町

宿泊村 40 台 160 人可能　宮城県女川町

仮設住宅 20 世帯石川県志賀町

B2 『がん予防と免疫調節としての金太郎細胞』

（共催：株式会社 金太郎 Cells Power）

株式会社 金太郎 Cells Power　代表取締役　アレクセイ・グラドコフ
医療顧問　　大沼　聡

人類は五千年程まえから誰かが想像したストーリーを信じ価値観を共有する能力により大きな集団を作り、その集団の力で自然淘汰から自分たちを守るための文明を継続的に創造してきました。

21 世紀に入り先進国と言われる国々を中心に地球上の多くの地域で西洋文明、西洋医学を基盤とした自然淘汰を受けずに自然環境弱者である子供、高齢者も殆んど死なない人類にとって天国の様な社会の創造に成功しました。

しかし、約 70 万年続いた長期間の自然環境での人類の生活様式は、短期間で起きた文明の発達により急速に変化する結果となりました。

地球環境問題と同様に元来地球環境の一部である我々の身体環境にも多くの精神的ストレスが生じ、食生活の急激な変化は体内環境の悪化を招きました。その為に身体を支える細胞機能が色々な体内環境問題を抱いた結果、自然免疫の弱体化によるコロナ、インフルエンザ等の流行、癌やパーキンソン病等の生活習慣病増加の原因となりました。高齢化社会を迎えた多くの国々では高齢による細胞機能の弱体化が生活習慣病等の多くの病気の主原因と成ったのです。

金太郎細胞の元である成長期のみに供給される間葉系幹細胞は、全てのヒトの体内にあり他の細胞の機能を助け、細胞分裂を促進し、血球細胞以外殆ど全ての細胞に置換する能力をもちます。

しかし加齢とともにその数は激減し、成長期を 100%ととすると、５０歳代で 10%を下回り、６０歳代では 2%程になります。

この結果 50 才代、60 才代では、若い時の様に間葉系幹細胞が十分な本来の役割が果たせない状況になり、身体全体の細胞の機能低下、細胞数の減少が進み老化による生活習慣病の増加、身体の縮小、老衰へと進行します。

金太郎細胞の点滴療法は、高齢者の体内の間葉系幹細胞数を増やし、その働きで若い時の細胞機能、細胞置換能力を維持して健康長寿を可能にする最も優れた療法の一つなのです。

C2 『健康増進と土壌改良』

共催：ホウヨウネット株式会社
ホウヨウネット株式会社　〇久保木豊、二子石純也

1、 目的

人及び動物の健康維持に対して腸内環境整備とプラズマ療法が及ぼす影響について実験を行った。

2、 対象及び方法

普段からビオフォーラ（Bio4ra）を愛用して頂いている 200 名にアンケート調査をし、120 名の方に回答を頂きました。
ビオフォーラを 1 日 0,2ｇ～0,4ｇ（1～2 カプセル相当）を毎日食前に飲んで頂き排便の色、臭い、浮き具合の確認をお願いし聴き取りました。
その中でビオフォーラとプラズマ療法を併用してアトピー性皮膚炎と乳癌
の方の 2 例を報告します。
アトピー性皮膚炎の方は 2014 年からアトピーが顔に出て酷くなり始め 2022 年 12 月から飲み始め、最初の 2 ヶ月はビオフォーラを 1 日 0,2ｇ～0,4ｇ（1～2 カプセル相当）を毎日朝と夜の食前に飲んで頂いた。
乳癌の方は 2022 年 6 月に乳癌告知を受け、内視鏡による温存術を受けた。
その後もホルモン療法、放射線治療等を受けながら、最初の 2 ヶ月はビオフォーラを 1 日 0,2ｇ～0,4ｇ（1～2 カプセル相当）を毎日朝と夜の食前に飲んで頂き、プラズマ療法は 1 週間に 1～2回、1 回当たり 30～60 分を施術した。
また、稲作実験においては化学肥料による農法（従来型）と弊社の NB クイーン及びスーパーエーブによる農法（NB 農法）を比較検討した。
ふさおとめ（苗名）を対象に肥料の面において NB 農法は化学肥料を一切使わず、除草剤と害虫駆除剤は同じ物を同じ量それぞれに使いました。

3、 結果

アンケートに於いては 7 割の方が翌日に便やお腹の調子に変化があり、2 割の方が 2～3 日後に便やお腹の調子に変化を感じ、1 割弱の方は 4～5 日後に変化を感じ、3%の方は変化がなかった。
アトピー性皮膚炎の方は 2023 年 1 月頃、飲み始めて 1 ヶ月程で顔の赤みが少なくなり、緩解に向かい現在は目立たない状態になり、精神的にも明るくなった。
乳癌の方は医師からの処方も減少し、再発予防としてビオフォーラとプラズマ療法の併用を続けて健常者レベルを保っています。
稲作実験の収穫量は化学肥料の方が 1 割程多い収穫量となりましたが、日本穀物検定協会に玄米品位分析を依頼し、2024 年度は従来型が 72 点、NB 農法が 74 点となり、2023 年度は従来型が 76 点、NB 農法が 77 点でした。

4、 結語

ビオフォーラに含まれる土壌菌類はタンパク質分解菌群、油脂分解菌群、デンプン分解菌群、セルロース分解菌群（4 種分解菌群と言う）の 4 種分解菌群がバランス良く含まれているため、食べた物の消化、分解、吸収に於いてスムーズに行われ、排便もスムーズかつ臭いや色見の変化が早く実感されたと思います。
プラズマ療法はマイナス電子を体内に供給する手段として発案しました。「雷の多い年は豊作だ」のことわざがあるように、雷（マイナス電子）は天からの恵み、土壌菌は地からの恵みであり、そこに生息する私達はプラズマ療法や土壌菌サプリを大いに利用し、健康維持から再発予防に至るまで役立てて欲しいと思います。

D2 『自然界に存在する生命力を活用した“インナービューティ”』

共催：株式会社プロラボホールディングス

株式会社プロラボホールディングス　小平 真実

地球が育んだ植物や微生物の力を、あなたの体内で最大限に活かすことができたなら、どれほど素晴らしいでしょうか？当社、プロラボホールディングスは、腸内細菌学や酵素栄養学をベースに、自然界の力を用いたインナービューティ製品を開発し、健康と美の両立を目指しています。本講演では、自然がもたらす生命力をいかにして美容や健康に役立てるのか、具体的な事例を交えてお伝えいたします。

『インナービューティ』とは、外面的な美しさだけでなく、内面的な健康と美しさを重視し、身体の内側から調和を図るアプローチです。特に、腸内環境を整え食生活の改善をしていくことです。

今回、長野県で開催される本学会のテーマ「身土不二＆医食農禅同源」に関連して、長野県木曽地方の伝統食品である“すんき漬け”を用いたプロラボホールディングスの代表的な製品「フローラバランス EX グランプロ」をご紹介します。

すんき漬けとは、木曽地方だけで 400 年以上も前から伝統食として作られている赤カブ菜を使った「無塩」の漬物です。すんき漬けの有効性は大学機関でもさかんに研究されており、その一つとしてすんき漬けを食している“木曽地方住民のアレルギー罹患率”は、長野県全域住民と比較して三分の一程度であったとの報告があります（疫学予備調査より）。

そんな木曽地方住民が食しているすんき漬け由来の乳酸菌（Lactbacillus Plantarum SNK）を独自技術でナノ型化し乳酸菌（殺菌）末にしました。菌体サイズは 1 ミクロン未満と小さく、特に免疫バランスを整える作用に優れています。

フローラバランス EX は、1 包にすんき漬け由来の植物性ナノ型乳酸菌を 5,000 億個配合し、152 種類の野菜や果物をひのき樽で発酵させたエキスを粉末化させたサプリメントです。消化をサポートする発酵エキス末と豊富な乳酸菌を摂取することで、腸内環境にアプローチし内側から健康と美容をサポートします。

このような自然界に存在する力を活かしたインナービューティの可能性を感じていただければ幸いです。人と地球の健康を同時に考え、持続可能な美と健康の実現に向けて、一緒に歩んでいきましょう。

A3 『マイコプラズマ感染症診断治療予防医療 AI/DX』

～ 健康長寿に向けた感染症から見た全世代型のヘルスケア医療の提案 ～

共催：エムバイオテック株式会社

エムバイオテック株式会社 代表取締役/マイコプラズマ感染症研究センター長　松田 和洋

マイコプラズマ肺炎は成人市中肺炎の 10-30%、小児肺炎ではさらに高く 20-50%の原因であることが知られている。それだけでなく、喘息や、合併症として IgA 腎症・ギランバレー症候群・スティーブンスジョンソン症候群など種々の免疫難病に移行することも知られている。マイコプラズマ感染症は臨床症状が多様であり、経過も急性から慢性化さらに難病まで長期にわたって多彩であるため、従来の診断では見落とされることが多い。従来の診断法のレベルでは、臨床治験などによる証明が困難であり、診療ガイドラインなど日常診療に至っていない。

私たちは世界発の最先端の研究で、マイコプラズマ細胞膜の特異な抗原を特定し、さらに、その抗原物質と全く同じ構造の化学合成に成功している。これを使って、感染状態の把握を可能とする、非常に微量な抗体量が測定できる技術（MID Prism®）とワクチンや抗体医薬について基礎研究から早期臨床試験への橋渡し研究を進めている。マイコプラズマが関連する疾患領域において、これまでできなかった早期診断や、ワクチンなど革新的創薬モダリティの新機軸となることが期待されている。実用化に向けてこの精緻な抗体測定法用による疫学調査を積極的に進めていく必要がある。

健康長寿社会の実現に向けても、パンデミックな感染症による合併症や慢性化による重症化を防ぐ早期の診断と治療の必要性は高い。このマイコプラズマ糖脂質抗原に対する抗体測定は、マイコプラズマ感染が自己免疫疾患を合併することが知られており、膠原病や自己免疫疾患の原因検索や鑑別診断において極めて重要となる。マイコプラズマ感染症が関連している場合には、原因が特定できるので治療方針が従来の炎症や免疫反応を抑制する治療と異なり、マイコプラズマに対する抗菌的な治療が必要となるため、診療ガイドラインの第一選択的に必要とされる検査と治療になる。自己免疫疾患やほかの感染症との鑑別診断が極めて重要となる。

急性期から慢性期まで多様な感染症状態を示すため、ライフスパンを包括的に視野に入れた、感染症管理への包括的なアプローチが必須となる。そのためには、各診療科が連携した医療ネットワークを構築し、より精度の高い医療体制の構築を進めていく必要がある。世界保健機構 WHO などの国際機関との連携した感染症サーベイランスによる公衆衛生システムのさらなる強化が望まれる。マイコプラズマ感染に関連する幅広い症状と臨床経過に対処するために必須な、医療 DX を活用した包括的な医学的アプローチが必須である。

《 演者略歴 》

松田 和洋（まつだ かずひろ）

エムバイオテック株式会社 代表取締役/マイコプラズマ感染症研究センター長
生年月日 １９５９年6月3日
最終学歴 山口大学大学院 医学研究科 医学博士
専門分野 臨床血液学・免疫学・感染症学・臨床微生物学
研究開発経歴
１９８５年 山口大学医学部医学科卒業
１９８５年 山口大学医学部第三内科入局（血液・内分泌・糖尿病・膠原病）
１９８７年 山口大学医学部寄生体学教室、国立感染症研究所研究生
１９９３年 東京医科歯科大学医学部微生物学教室助手
１９９５年 ジョンズ・ホプキンス大学留学
１９９７年 米国国立衛生研究所(NIH)留学
１９９８年 国立がんセンター研究所 主任研究官
２００５年 エムバイオテック株式会社創設
２００８年 エムバイオテック株式会社 代表取締役/研究開発部長
２００９年 独立行政法人産業技術総合研究所 タスクフォースプロジェクト代表研究者
「マイコプラズマ糖脂質を標的とした診断 - 治療法の技術開発」
２０１２年 エムバイオテック株式会社マイコプラズマ感染症研究センター設立
（独立行政法人中小企業基盤整備機構 千葉大亥鼻イノベーションプラザ内）
２０１４年 山口大学医学部の第 43 回霜仁会学術振興賞 藤生賞受賞
２０１５年 日本マイコプラズマ学会 学術賞（北本賞）受賞
２０１８年 新価値創造賞受賞 2018
千葉大学大学院客員教授、静岡理工科大学客員教授、山口大学公衆衛生学非常勤講師、日本マイコプラズマ学会元理事、ヘルシィエイジング学会理事、国際個別化医療学会理事、第 44 回日本マイコプラズマ学会学術集会長、第7回・第 10 回ヘルシィエイジング学会学術集会長
Antigens: Lipids. Encyclopedia of Life Sciences（John Wiley & Sons, Ltd.）（2011）
日経バイオテクの「ベンチャー探訪」に掲載(2021)
国際マイコプラズマ学会(2023)、日本マイコプラズマ学会とのジョイントシンポジウム「多彩なマイコプラズマ感染症(Diverse Spectrum of Mycoplasma Infections)」のシンポジストとして従来検査法の限界と解決策について発表し提言「Diagnostic methods and solutions of mycoplasma infections overlooked by having a diverse spectrum」
・『マイコプラズマ感染症ワクチン』についての国際特許成立
（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 産業技術実用化開発費補助事業研究開発型ベンチャー技術開発助成事業（研究代表）
・JETRO、JBA、東京都、千葉県などの支援事業：BIO 2019-2023 採択, 厚生労働主催ヘルスケアベンチャーサミット 2018-2023 採択、JHVS2021 Global Pitch Finalists、Genesis2021 Global Pitch from Japan、X-HUB TOKYO 2022 (London コース)採択
・BIO-Japan2023 の出展者プレゼンテーション「創薬モダリティの新機軸：マイコプラズマ感染症に対する新規創薬モダリティを基盤とした予防未病医療の実現に向けて」

B3 『桃太郎ワクチン』　がん治療と予防の新しいアプローチ

共催：株式会社 金太郎 Cells Power

株式会社 金太郎 Cells Power　代表取締役　アレクセイ・グラドコフ
医療顧問　　大沼　聡

Viruses have been present on Earth since the beginning of life. We often think of them as enemies, posing a serious threat to humanity—especially after the emergence of SARS-CoV-2 and the resulting pandemic.

However, viruses have also played a crucial role in human evolution and the evolution of all life on Earth. In fact, we owe them a debt we can never fully repay. One of the surprising ways viruses can help is by treating cancer. Viruses with these properties are known as oncolytic viruses.

Oncolytic viruses are non-pathogenic, meaning they are safe for human health and only target cancer cells. They kill cancer cells directly and also boost the body’s anticancer immune response.

These viruses can be found naturally among various viral families, such as enteroviruses, paramyxoviruses, and herpesviruses, among others. Additionally, they can be engineered with specific traits to target cancer cells and promote healing. Many viruses have been identified for therapeutic use, with some already in clinical trials. Others, like Imlygic™ and Rigvir, have been approved and used for several years in the treatment of melanoma.

C3 『古細菌農法で支える安心・安全な未来の食』

―高齢者の健康と循環型社会の実現―

共催：医食農同源株式会社

医食農同源株式会社　代表取締役　久堀 博

1. はじめに: 医食農同源事業のビジョン
   医食農同源株式会社は、環境に優しく、健康をサポートする食の安全性を最優先に考え、循環型社会を目指しています。食の生産から消費までのプロセス全体で、健康と環境保護を両立させることを目指しています。
2. 食による健康リスクとその認識
   食の安全は特に高齢者にとって重要です。私たちは、以下のリスクを減らすための取り組みを進めています。
   - 硝酸態窒素のリスクと古細菌の分解作用:
     硝酸態窒素は、野菜や飲料水に含まれることが多く、体内で発がん性物質に変わる可能性がありますが、古細菌農法ではこれを分解し、作物への蓄積を抑えます。
   - 抗酸化作用:
     古細菌農法で育てた米や野菜は、自然の栄養素を豊富に含み、抗酸化作用が高いことが特徴です。老化防止や健康維持に役立ちます。
   - 食肉の安全性向上:
     飼育方法の改善を行い、動物にストレスをかけず、過剰な薬剤を使用せずに育てることで、安全で栄養価の高い食肉を提供しています。
   - 安全な飲料水の確保:
     古細菌農法は硝酸態窒素の分解を促進し、農地からの汚染物質の流出を防ぐことで水質を保護します。これにより、安全な飲料水を確保します。
3. 古細菌農法を活用した有機米粉パンの提供と利活用
   古細菌農法で育てた米を使った有機米粉パンを提供し高齢者施設や病院で広く活用されています。
   - 国産化による安心感:
     日本産の米を使用し、安心して食べられる主食を提供しています。
   - 調理作業の負担軽減:
     セントラルキッチンで調理済みのため、温めるだけで簡単に提供でき、スタッフの負担を軽減します。
   - 農福連携による雇用創出:
     障がい者の雇用を創出し、農業分野での人手不足解消に貢献しています。
   - 農業の効率化と安心安全の確保:
     古細菌農法は、農業の作業効率を向上させ、環境にも配慮した持続可能な農業を実現しています。
4. 動物性食品の安全性向上に向けた取り組み
   古細菌農法を基盤とした家畜の飼育方法と健康な飼料を使い、安全かつ高品質な肉や卵を生産しています。
   - 安全な飼育方法の開発:
     家畜がストレスの少ない環境で育つことで、抗生物質の使用量を減らし、安全な食肉を提供しています。
   - 特殊な家畜用サプリメントの導入:
     自然由来の成分で作られたサプリメントを導入し、家畜の免疫力を向上させています。
5. ストレスフリーな鶏卵生産:
   餌の質を向上させ、ストレスの少ない環境で育てられた鶏から生産される卵は栄養価が高く、健康に良い食材として評価されています。
6. 終わりに: 持続可能な未来へ向けて
   古細菌農法により、高齢者の健康を守り、地域の農業や福祉を支え、持続可能な社会を目指しています。次世代に渡る持続可能な発展を実現するために、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

D3 『未病をテーマとした“還元電子”を体験する体験会』

共催：フォトンライフ株式会社

代表取締役　内山修一

私たちは普段から「自然治癒力」や「免疫力アップ」を口にします。では、自然治癒力・免疫とは何か？と考えた時、１００％正確に答えられる人はいるのでしょうか？どれほど高名な科学者や医学者といえども、すべてを明解に出来る方は、皆無ではないでしょうか。

科学の世界では「生命体の最小単位は細胞である」のが常識です。ですが、実は、100 年以上前から、細胞の 1000 分の 1 前後という微生物の存在が明らかにされているのです。

この微生物はソマチッドとも呼ばれ、最近ではどうも自然治癒力や免疫力に密接に関わっているのではないかと言われています。

研究によりますと、ソマチッドとは、人を含めた動物の体内及び植物の体内、細菌の体内に並びにすべての生命体の細胞の中にも存在しています。化石や岩石などの鉱物の中、土中、河川、沼、湖、海中にも大気中にも存在します。つまりは、この地球上のどの場所にも存在していて、宇宙空間にも存在し得るということです。

そしてこのソマチッドはマイナス電子によって活性化することがわかっています。ちまたでよく言われる“マイナスイオンの健康効果”とは、ソマチッドの活性化が根源にあるようで、ソマチッドがマイナスイオンを摂取すると細胞中のミトコンドリアが活発になり、エネルギーを生産し細胞を活性化させるのです。

生命の根幹に働きかける電子エネルギー発生装置「フォトン」

身体に何らかの異常が起きていたりや老化が進んでいる部分は、必ず酸化してプラスイオンが取巻いています。ソマチッドはマイナスイオンを餌に働きますから、体内が酸化に傾くとソマチッドの活動量が低下し、ミトコンドリアの ATP 合成がスムーズにいかず、細胞の働きが 鈍化し、老化や病気に繋がっていくという悪循環につながります。

2012 年ネイチャー誌に発表された論文の中に「良性腫瘍の癌化はミトコンドリアの機能低下が原因」というのがありました。体内の酸性化＝プラスイオン電子がいかに健康に悪影響を及ぼすかの一例ではないでしょうか。

フォトン療法とは、プラスイオンに傾いた細胞を、電子波動を細胞に照射することで、ソマチッドを活性化しミトコンドリアのエネルギー産出を最大にしていくという考えで、考案された療法です。

さらにこの療法をより迅速に的確に行うために開発されたの「フォトンライフ桜」（フォトンライフ株式会社）です。

フォトンライフ桜はマイナスイオン電子波動を体内の細胞に働きかけ、自然治癒力を引き出す電子照射器で、開発から５年あらゆる臨床調査を重ね、満を持して発表されたものです。

A4 『足先からの健康長寿』

済生会川口総合病院皮膚科 主任部長
一般社団法人 足育研究会 代表理事　高山かおる

足先は、全身の健康に密接に関わる重要な部位ですが、そのケアはつい後回しにされがちです。しかし、足部の健康を維持することは、歩行やバランス能力を保ち、健康長寿を実現するために不可欠です。

本講演では、足先から健康長寿を目指すために、特に重要なスキンケアと靴選びに焦点を当てます。足部の皮膚や爪は、摩擦や圧力に耐えうる強さと柔軟性を持つ一方で、適切なケアが不足するとトラブルの原因となります。足爪のスキンケアを通じて健康な皮膚を保つことの重要性や、爪変形・角化性病変の予防方法について具体的に解説します。

また、足に合った靴を選ぶことが、どれほど足部の健康維持に影響を与えるかについても詳述し、正しい靴選びのポイントを紹介します。

足先のケアを後回しにせず、日々の生活に取り入れることで、全身の健康と生涯において生活の質向上を実現するための具体的な方法を共に考えていきましょう。

《 演者略歴 》

高山かおる（たかやま　かおる）

1995 年３月　山形大学医学部　卒業
1995 年４月　東京医科歯科大学大学入局
2000 年３月　医学博士取得
2000 年４月　済生会川口総合病院　皮膚科
2002 年４月　中野総合病院　皮膚科
2004 年７月　秀和総合病院　皮膚科医長
2007 年４月　東京医科歯科大学皮膚科助教
2009 年４月　同　講師
2015 年４月　済生会川口総合病院　皮膚科　主任部長
　　東京医科歯科大学特任准教授併任
2022 年５月　東京医科歯科大学臨床准教授併任
現在にいたる

皮膚科専門医。日本臨床皮膚科医会常任理事。日本皮膚免疫アレルギー学会理事。日本フットケア・足病医学会理事。日本転倒予防学会理事。社）足育（そくいく）研究会代表。

B4 『 精密な治療としての腫瘍溶解ウイルス療法 』

共催：Guangzhou Virotech Pharmaceutical Co.,ltd.

Guangzhou Virotech Pharmaceutical Co.,ltd.　庄暁桐

注射用 VRT106 は、腫瘍細胞を死滅させることができるウイルスです。非常に安全性の高いウイルスであり、環境に害が無く、人体にも安全です。消化器系、呼吸器系、空気飛沫や接触によっては伝播せず、通常の感染ではヒトや動物に病気を引き起こすこともありません。

VRT106 が腫瘍細胞に精密に感染する特性：

VRT106 は、腫瘍細胞に選択的に侵入し、正常細胞への影響はごくわずかです。腫瘍細胞で高発現している膜タンパク質（MXRA8 など）は、VRT106 が腫瘍細胞に入りやすくします。一方、腫瘍細胞に欠損している抗ウイルス性タンパク質（ZAP など）は、正常細胞を保護しますが、腫瘍細胞内での複製を促進します。Virotech は、腫瘍細胞上のウイルス受容体と抗ウイルスタンパク質を検出する技術を確立し、患者が VRT106 治療を受けた後に達成可能な治療効果を予測するために使用します。

VRT106 の腫瘍細胞に対する殺傷作用のメカニズム：

VRT106 は、主に 2 つのメカニズムを介して抗腫瘍作用を発揮します。1 つは直接的な腫瘍溶解作用で、もう一つは抗腫瘍免疫の活性化作用です。

VRT106 の各種腫瘍に対する治療効果：

注射用 VRT106 は、腫瘍内注射または静脈内投与を選択でき、適応症は幅広く、特に多発性病変を有する患者または術後再発リスクの高い患者に適しています。研究により、VRT106 は、肝臓癌、直腸癌、膵臓癌、トリプルネガティブ乳癌、肺癌、子宮頚癌、前立腺癌など多くの固形腫瘍に対して治療効果が確認されています。

単独で使用しても効果的ですが、VRT106 は、放射線療法、化学療法、PD-1/PD-L1 抗体、CTLA-4 抗体、DC ワクチン、NK 細胞、チロシンキナーゼ阻害剤（TKI）などの分子標的薬などの治療法と併用すると、さらに効果が高まります。

既存の臨床データでは、単剤療法では腫瘍の縮小率が 50%に達し、併用療法では 75%～90%に上昇することが示されています。治療を受けた遠隔転移を伴う腫瘍患者では、最長 6 年以上の生存期間が確認され、治療を受けた再発リスクの高い患者では、最長 5 年以上再発なしの状態が維持されています。

VRT106 製造者について：

本製品は、Guangzhou Virotech Pharmaceutical Co., Ltd.が開発し、GMP 基準に従って製造されています。当社は、2015 年に中山大学の Guangmei Yan 教授のオリジナルチームによって設立されたスタートアップ企業であり、革新的な腫瘍溶解ウイルスの開発に取り組んでおり、がんを根治できる腫瘍溶解ウイルス技術の創出を目指しています。

C4 『 縄文からつづく大麻文化 』

著述家　長吉秀夫

大麻草は縄文時代から、日本人にとって大切な植物だった。
繊維は縄や衣服として、麻の実（種子）は食料として、そして、茎は燃料として、さらには宗教儀礼にも使用されていたと考えられている。
これらの痕跡は、縄文時代の遺跡からも発見されている。
さらに、縄文土器の製作過程で使用される「縄文原体」という道具の素材にも、大麻繊維が使用されていたことがわかってきた。
縄文の模様は、大麻の縄でつけられていたのである。

時代を経て大麻の繊維は、神社の注連縄や結界、お祓いの幣（ルビ：ぬさ）などの神具にも使用されており、天皇即位の儀式である大嘗祭には、大麻でつくられた特別な布がなくてはならない。
これらの源流には、縄文から続く大麻と日本人の営みがある。

第二次大戦以前までは、日本全国に大麻は自生しており、各地に大麻畑が存在していた。
戦前の日本では、大麻の繊維で衣服やロープをつくり、麻の実や種子油を食べ、茎を燃料にしてきた。
それは、縄文人と変わらぬ光景だ。
しかし戦後、GHQ による占領政策で禁じられたことで、それまで日本人が抱いてきた「神の草」ではなく、危険な麻薬という印象に変わってしまった。

縄文からつづく日本文化の中には、いつの時も大麻草が存在していた。
日本の大麻文化を通して、日本人の中に生きている縄文のこころについてお伝えしたい。

《 演者略歴 》

長吉秀夫（ながよしひでお）

略歴：1961 年　東京都生まれ

幼少より江戸葛西囃子を習得し、祭り文化への興味を深めていく。

舞台製作者として、内外の民俗音楽・舞踊やロックと出会い、全国津々浦々をツアーする日々が続く。その傍ら、ジャマイカやインド、ニューヨーク、ツバルなどを訪れながら、精神世界やストリート・カルチャーなどに中心にした執筆を行い、現在に至る。

30 年以上にわたり、日本国内において執筆と講演会を中心に、大麻文化について伝えている。

主な著書：

「大麻入門」（幻冬舎）

「タトゥ・エイジ」（幻冬舎）

「不思議旅行案内～マリファナ・ミステリー・ツアー～」（幻冬舎アウトロー文庫）

「縄文ネイティブ」（キラジェンヌ）

「医療大麻入門」（キラジェンヌ）

「健康大麻という考え方」（ヒカルランド）

「大麻　禁じられた歴史と医療への未来」（コスミック出版）

A5 『 100 歳まで元気に歩ける歩き方講座 』

一般社団法人足育研究会　理事　黒田恵美子

健康で年齢を重ねていくために身体活動は重要な役割を持ちます。その中でも歩行は、生活活動としても運動としても行える優れた有酸素運動です。

健康効果を上げるには、歩数や早さ、歩幅、頻度などに目標の目安があります。年齢や経験、体力、疾病の有無などによって個別にプログラムされるのが理想的です。

また、人生の最期まで自分の足で歩くことは、自立した人生を全うするために重要です。

そのためには、ロコモティブシンドロームを防ぎ、いつまでも歩ける運動器を育て、メンテナンスしていきたいものです。

より良い立ち姿勢や歩き方を知り意識して動くこと、それが実践できるようにエクササイズすることが車の両輪となります。

本講座では、簡単に自分でできる姿勢の評価と直し方、歩行動作の意識の仕方、運動器の中でも体の土台となる足を見直すことを、理論と実践でお伝えします。

B5 『 長寿時代のヘルスリテラシー 』

日本医療科学大学　元教授　別所文雄

我が国は、男女ともその平均寿命が 80 歳を越え、超高齢社会となって久しい。今後更に高齢化が進み、百寿者についてみても団塊の世代が 100 歳を迎え始める 2047 年 に は 50 万人を突破すると見込まれている。高齢者が増えるということは、言い換えれば高齢に伴う様々な心身の不都合を抱える人々が増えると言うことでもある。従って、単なる寿命の長さではなく、健康寿命の長さが重要になる。

高齢化は、様々な社会経済的負荷を大きくする。長寿化に伴う社会経済的先行きの不安に対する対策とは別に、健康寿命を延ばすための試みが様々になされている。これは、高齢化に伴う「老化」対策でもある。高齢者の受診率の高い疾患としては、脳血管疾患、悪性新生物（がん）、心血管疾患、高血圧性疾患がある。これらは、健康に対する脅威としての感染症が、一般的には世界規模で問題になることはなくなった現在、糖尿病や慢性閉塞性肺疾患などと共に、人類に共通した現在的な健康上の脅威としての非感染性疾患（NCD）である。

人は高齢になると様々な健康上の不安に苛まれる。これは、際限なき健康願望と有限の生への執着が必然的に生み出すギャップのためであり、健康や医療に関する情報を知れば知るほど高まる健康志向の裏返しとして生じる。その結果、食物栄養素の「不足」の疾患はほとんど目にすることがないのに，常に健康のために，長寿のために摂取すべき何かが足りないという妄想が人々の頭の中を駆け巡り、現在のサプリメント全盛状態をもたらしている。

市中にあふれるサプリメントないしは健康食品は、産業としてもきわめて大きなものとなりつつあり、今後ますますの拡大が見込まれている。ある調査によると、世界中の消費者の 60% 以上がビタミン（機能性食品）を毎日摂取しており、55%が、健康と生活のバランスを維持するためにサプリメントを摂取することに惹かれているという。

高齢者の健康意識調査では、73%が健康に関して不安を感じており、その不安の内容としては、生活習慣病、がん、心臓病や脳卒中、認知症、鬱病などの心の病気、骨粗鬆症、緑内障などの目の病気、歯の健康、体力の衰え、などが挙げられている。これらはまさに、健康食品あるいはサプリメントとして売り出され、宣伝されている商品が対象としている状態である。しかし、売り出され、広告されている健康食品が「効能書き」や宣伝にある効能を有しているかということが問題である。その効能の信憑性が如何に薄いかについては、近年、マスメディアでも頻繁に取り上げられるようになっている。しかし、市販の全ての商品について調べるわけにはいかない。そこで必要となるのは、消費者自身が、その商品についての宣伝内容の信憑性を判断する力を持つことである。そのためには、商品に向き合う態度とそのための知識、すなわちリテラシー力が必要である。

《 演者略歴 》

別所文雄（ベッショフミオ）

【学歴】

1969 年 9 月 30 日　東京大学医学部医学科卒業
1975 年 7 月　留学：Clinical fellow, Hematology/Oncology, St. Jude Children's Research Hospital, Memphis, Tennessee, U.S.A.
1982 年 12 月　留学：Visiting fellow, Bone Marrow Transplantation Unit, Fred Hutchinson Cancer Research Center, Seattle, Washington, U.S.A.
1993 年 11 月　留学：　Visiting Staff Fellow, St. Jude Children's Research hospital, Memphis, Tennessee, U.S.A.）

【職歴】

1969 年 10 月　東京大学医学部小児科 助手
1968 年 12 月 16 日　東京大学医学部小児科 講師
1991.年 4 月 1 日　東京大学医学部小児科 助教授
2000 年 4 月 1 日　杏林大学医学部小児科 教授
2006 年 4 月　日本小児科学会　会長（1 期のみ）
2006 年 8 月　日本学術会議　連携会員（1 期のみ）
2008 年 11 月 30 日　（公財）日本ユニセフ協会 理事
2009 年 4 月 1 日　杏林大学医学部　客員教授
2011 年 6 月　(公財）小児医学研究振興財団　評議員会　会長
2013 年 4 月 1 日　日本医療科学大学保健医療学部医療・基礎教育科 教授
2018 年 6 月　(公財）がんの子どもを守る会 顧問
2019 年 6 月　（認定 NPO 法人）ぶどうのいえ 理事
2021 年 3 月 31 日　日本医療科学大学退職
2024 年 6 月 1 日　松蔭大学非常勤講師（～2024 年 9 月 30 日）

A6 『 足元からの健康づくり・動きづくり 』
アスリートも愛用、長野発祥、草履サンダルの効果

石川県立大学教養教育センター　教授　宮口和義

高齢化が急速に進展するなか、「日常生活動作（ADL）」や「生活の質（QOL）」をいかに維持するかが非常に重要になっている。特に高齢者にとって、転倒は寝たきりの要因となることから、転倒予防は取り組むべき重要な健康問題であるといえる。これまで歩行機能を改善し、転倒を予防するには、定期的な運動、特にバランスや筋力強化の為のトレーニングが効果的であるといわれてきた。しかし、高齢者の中には、身体的な問題で運動する機会が限られている者やアクセスの問題で自宅以外での活動の機会が少ないなど、日常的に運動を継続することが難しい場合もある。よって、運動習慣の推奨だけでなく、安価で誰にでも利用しやすい介入方法を検討していく必要があろう。

近年「子どもロコモ」が問題になっているが、シューズを脱いだ足を見ると浮き趾の児童が非常に多い。接地する足裏がしっかりと力を地面に伝える役割を果たせなければ姿勢が悪いだけでなく、推進力のない歩きになる。よって、足本来の機能、特に足趾力を高めることが重要で、それによってメカニカルなストレスも減らすことができ、ケガの予防にも繋がる。これは中高齢者も同じといえよう。

我々はこれまで鼻緒のある草履サンダルが裸足やシューズ以上に立位時の足趾力、浮き趾改善に効果があることを報告している。中高齢者を対象にしたサンダル効果も検証しており、足趾力強化とともに土踏まず形成の促進、足圧中心の前方偏位等、足部機能改善の可能性を示してきた。これらは転倒リスクとも深く関わっており、転倒予防の一つのツールとして草履サンダルは極めて有効であることがわかった。これを機に 2019 年より社会医療法人財団 薫仙会（七尾市）とともに、高齢者の機能回復に関わる『Foot 活プロジェクト』を能登中心に進めてきた。そんな中、2024 年元旦に最大震度 7 の能登半島地震が発生した。震災後、多くの者が避難所生活を送っていたが、避難所ではスリッパを履いている者が多く、特に高齢者は“すり足”になっており、どんどん足腰が衰えていた。実際、調査を行うと足趾狭力および内転筋力の衰えが認められた。そこで、草履サンダルを一部地域の避難者に提供したところ「足指が開き、気持ちがいい」「姿勢が良くなり、歩きが変わった」と大変喜んでいただき、行政からも高く評価していただいた。

日本には、伝統的に草履を履く文化があり、特に高齢者は夏季に愛用する者が多い。最近では、樹脂性のスリッパ型サンダル（クロックス等）の愛用者が増えているが、緩めな靴やサンダルで歩くと、安定性を求め足趾が開き気味になり、靴が脱げないように足趾が上を向く習慣がつくと報告されている。転倒リスクが高まることも指摘されている。本講演では、現代人に多い浮き趾の実態、履物の影響、それを改善する草履サンダルの効果について紹介したい。

《 演者略歴 》

宮口 和義（みやぐち かずよし）

石川県立大学教養教育センター　教授　博士(学術)

1964 年石川県金沢市生まれ　専門は身体運動学・体力トレーニング論

【学歴】

1979 年 3 月　石川県立泉丘高等学校　卒業
1983 年 3 月　金沢大学教育学部特別教科（保健体育）教員養成課程　卒業
1985 年 3 月　金沢大学大学院教育学研究科修士課程　修了
1986 年 3 月　金沢大学大学院研究生　修了
2008 年 3 月　金沢大学大学院自然科学研究科生命科学専攻博士課程　修了

【職歴】

1995 年～2007 年　石川県農業短期大学　非常勤講師
2007 年～2012 年　石川県立大学教養教育センター　准教授
2012 年～　　石川県立大学教養教育センター　教授

【所属学会】日本体育・スポーツ・健康学会，日本体育測定評価学会(副会長)，日本教育医学会（常任理事），日本発育発達学会，日本体力医学会

【受賞】

2007 年　金沢市陸上競技協会 優秀指導者賞
2009 年　日本教育医学会 学会賞
2013 年　日本体育測定評価学会 学会賞
2019 年　全国大学体育連合　大学体育教育賞
2020 年　笹川スポーツ研究助成　優秀研究賞

いしかわ科学トレーニング専門委員を務め，県内トップ選手の育成強化を担当．また小立野ジュニアアスレチッククラブを設立，監督として指導にあたり各種競技会で多くの入賞者を出す．運動用具「チビラダー，JE ボール，ビーズロープ（ダンノスポーツ)」の開発にも熱心で，アスリートサンダル「武王（ラッキーベル)」も商品化している．最近は YouTube を活用し，豊富な指導経験に基づく独自の体育教材動画（ラダー運動、なわとび運動）を配信している．

B6 『Aging Technology で Healthy Aging を実現することができるのか？』
～海外との事例の比較から考える～

日本次世代型先進高齢社会研究機構　代表理事
千葉大学医学部附属病院患者支援部特任准教授　阿久津靖子

世界的に少子高齢化が急速に進行しており、日本はその最前線に立たされ、介護リソースの不足をはじめとしたさまざまな課題に直面している。2020 年の COVID-19 パンデミックを契機に、高齢者の孤立・孤独が問題視され、海外では医療・介護の現場からの人材流出も多く見られた。一方で、テクノロジーの活用により、高齢者の自立を支えるインクルージョンテクノロジーが孤立や介護リソース不足の緩和に貢献する事例が増え、その需要は世界的に高まっている。

2022 年、パンデミックが収束に向かう中で、厚生労働省の研究費補助金を受け、カナダ・米国・イスラエルの研究機関やカンファレンスに参加し、各国の実情をリサーチした。その年はまさに「Aging Technology 元年」とも呼ばれる転換期であった。COVID-19 をきっかけに、団塊世代を対象とした Aging Technology 市場は拡大し始めていたが、日本では Aging Technology が単に Care Technology として捉えられがちである。日本は高い技術力を有し、特にウェアラブルロボットや外骨格市場で世界的に評価される技術や特許を持ちながらも、医療・介護現場での技術実装が進んでいない現状がある。

海外では『ROBOTS WON’T SAVE JAPAN』という著書が出版され、高齢者ケアテクノロジーに関するエスノグラフィーとして、日本の課題として取り上げられている。自分の研究では、各国の Aging Technology を取り巻く文化的・社会的背景が、開発プロセスや普及にどのように影響しているかを調査し、日本のテクノロジー普及の課題をまとめた。

少子高齢化が進行し、介護リソース不足が深刻化している現在、アジア諸国でも高齢化が進んでおり、これまで依存していた海外からの介護人材の確保も難しくなると予想されている。介護保険制度などの公的サポートも、財政的な限界に近づいている状況である。今後の日本社会では、高齢者がテクノロジーを活用して住み慣れた場所で自立して生活するライフスタイルが求められるようになるだろう。

実際に、国内では 60 代の９割、70 代の７割がスマートフォンを所有しており、テクノロジーは高齢者の日常生活に欠かせないものとなりつつある。世界の高齢者を取り巻く状況と日本の現状を比較し、どのようにテクノロジーを活用して Healthy Aging を実現できるかについて、講演を通じてヒントを提供したいと考えている。

《 演者略歴 》

阿久津 靖子（あくつ やすこ）

株式会社 MT ヘルスケアデザイン研究所所長
千葉大学附属病院患者支援部特任准教授　（2019 年～）
日本次世代型先進高齢社会研究機構代表理事
Aging2.0 Tokyo chapter ambassador、
ヘルシンキブリーフセラピーインスティテュート認定リチーミングコーチ

筑波大学大学院理科系修士環境科学研究科にて地域計画を学び、プロダクトデザイン事務所である GK インダストリアルデザイン研究所入社。プロダクト製品開発のための基礎研究・デザインマーケティング・街づくりの基本計画に携わる。その後、子育てをしながら地域雑誌の編集業務、フリーで商品開発プランニングに従事。
子育てが一区切りして、縁あってコンセプトデザインを行っていた数社の商品開発や店舗開発/販売プロモーションまでを行い、「子どもの居場所をつくり生涯使える家具」「世界初のオーダーメード枕」など市場がないところにブランドを創り出し全国区にするという経験を持つ。その当時より、 ヘルスケアライフスタイル創造を目指す製品開発や店舗プロモーションを模索。その後ヘルスケアに特化したデザインリサーチに従事、2012 年独立し、デザインリサーチファームとして（株）MT ヘルスケアデザイン研究所を創業。
その一方で日本次世代型先進高齢社会研究機構を発足、2019 年より千葉大学医学部附属病院患者支援部にてメディカルイノベーション人材育成プログラム・介護 DX 人材育成プログラムをプロディース。東京科学大学(東京医科歯科大学)　統合教育機構　イノベーション人材育成部門イノベーション人材育成プログラム　メディカルデザイン講座を担当（2022 年度～2024 年度）2025 年より千葉大学医学薬学府先進医学共同専攻進学予定

■ フューマンインターフェイス学会研究賞受賞(２０２１年)
福祉機器評価プロセスと当事者を巻き込んだコミュニケーションの実践分析
■ 令和４年度厚生労働科学研究費補助金 政策科学総合研究事業（臨床研究等ＩＣＴ基盤構築･人工知能実装研究事業）JPMH22AC1002 受託

D6 『発声のススメ』　対談と実践

公益社団法人能楽協会 一般社団法人日本能楽会会員　狂言方大蔵流能楽師　善竹十郎
一般社団法人 日本朗読検定協会 音読ヘルストレーナー　今井理恵子

言葉を発して思いや感情を伝えることは、日常生活を送る上で欠くことのできないコミュニケーションの基である。

しかし昨今、引きこもりやストレスによる精神疾患を発症する要因は、コミュニケーションの障害もその一つとして挙げられる。

また、加齢に伴って言葉を発することが少なくなると、口や喉、肺の筋力の衰えで、誤嚥性肺炎が多くなると共に、滑舌が悪くなることで意思疎通が困難になり、コミュニケーション不足が進行する。こうした状況は認知症を加速させる基だと考える。

正しい発声を習得することは、脳（前頭前野）の活性化とインナーマッスル（内臓筋）の鍛錬、健康強化に役立つことを明らかにする。また、発声は呼吸の訓練でもあり、寝たきりの状態でも出来ることで、これからの介護現場での健康維持に役立つと期待できる。

本講演では、狂言師善竹十郎氏との対談により、伝統的な狂言の発声の仕方や練習方法と、朗読のそれとの共通点や相違点を明らかにし、これまで発声が健康へ及ぼしてきた歴史的背景や影響を話し合う。

また、朗読講師、音読ヘルストレーナーとして中高年への認知症予防の為、これまで実践してきたことをご紹介し、体験してもらう。

2024 年９月２日に『認知症施策推進基本計画案』が政府によって承認されたことを受け、この『発声トレーニング』が認知症予防に貢献できることを提案し、トレーナー育成と普及を目指したい。

一般演題　（1）

経穴におけるヘモグロビンの反射光波長特性測定による自律神経機能評価の検討

日本医療科学大学保健医療学部　平井紀光

【はじめに】

現代西洋医学に基づいた現代医療技術の飛躍的に進歩し、日本人の「平均寿命」は世界 1 位まで伸び続けている。しかし一方の、「健康寿命」はというと「平均寿命」より 10.4 年も短い（厚生労働省 2023 年人口動態調査による）。この 10 年余りは何らなの病気や障害で QOL の低下し、医療・介護の対応が必要とされる。これに対し、西洋医学に基づく要素還元主義的なアプローチによる対症療法が中心の現代医療技術では十分な対応ができないことから、現代医療技術の限界が認識されつつある。

そもそも、「生命現象は細胞、組織、臓器が互いに作用し合う一連のシステムの形成により生じ、恒常性機能（生体内外の環境変化への対応力、適応能力）によって生命活動を維持している」とされている。人間の健康維持のためには、こうした生命の根源から新しい医療技術を考えていく必要があるのではないか。

一方、伝統的東洋医学における鍼灸術は、経穴（ツボ）を刺激することが自律神経の働きに密接に関係しており、恒常性機能に関係の調節をする療法として認識されており、現在も伝統的な民間療法として普及し期待が高まっている。さらに、1988 年には、鍼灸師の国家試験制度が制定され、鍼灸師養成の大学（学部、学科）が、各地に現在 11 校が設置されている。また、2008 年には伝統的東洋医学を含めた「日本統合医療学会」が設立され、活発な活動が行われている。

こうした中、2013 年 2 月厚生労働省による「伝統的東洋医学を含む『統合医療』のあり方検討会」の議論を整理した報告書では「現時点での統合医療はエビデンスに乏しいことや患者の安全・安心は十分に確立されているとは言い難く、推進することは適切とは言えない。」と結論付けている。また、EBM 重視で保険診療を対象とする医療を原則とする日本の医療制度では、伝統療法の鍼灸療法には「混合医療の禁止制度」が適用され、臨床の場における医療的な貢献をするには難しい状況と言える。

こうした状況を踏まえ、人間の健康維持の根源である「恒常性機能：ホメオスタシス」と自律神経機能との関係、及び、鍼灸の重要なポイントである自律神経と密接な関係がある経穴（ツボ）に着目し、その特性を科学的（物理的、生理学的）なエビデンスを探るため「経穴の特性測定装置」を開発し、自律神経機能測定実験を試みたので、その一部を報告する。

【実験方法と結果】

経穴部位組織中微小循環血中の酸素加ヘモグロビンと脱酸素ヘモグロビンとの可視光波長領域の相対的吸光度を分析し数値化することにより、交感神経と副交感神経のバランス状態評価の検討を行った。被験者は健常者一人の一日の生活時間の中で昼食 30 分前と昼食 30 分後の 2 回計測を行い、5 日間行った。その結果、いずれの日も昼食 30 分後の副交感神経が優位であることを示唆する数値が示された。

＜ヘルシィエイジング学会法人賛助会員＞

一般社団法人 足育研究会	Arteryex株式会社
株式会社ダステック	ホウヨウネット株式会社
株式会社KTS	エムバイオテック株式会社
医食農同源株式会社	Guangzhou Pharmaceutical Co., Ltd